

京都橘大学考古学研究室との協働による^{はいど}拜戸古墳群の測量

京都橘大学
考古学研究室の活動

高島市域には、田中王塚古墳、鴨稻荷山古墳をはじめ多くの古墳が存在することが知られていま

す。これらの古墳は、高島市出生とされる継体大王に関連が深い遺跡として、日本古代史において注目されてきました。このことに着目した京都橘大学考古学研究室は、平成30年より高島市をフィールドワークの対象として、市と協働で市内に所在する古墳や出土品の調査などに取り組みま

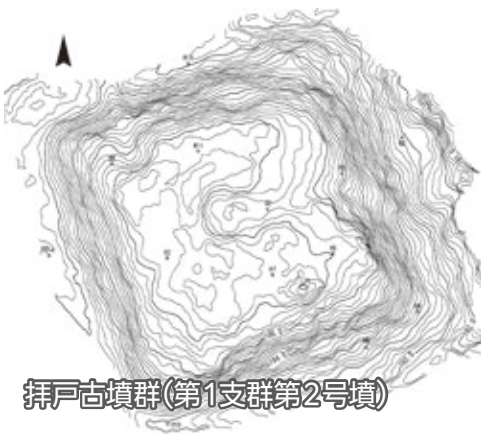


拜戸古墳群位置図

所在する拜戸古墳群の中のひとつで、これまで存在が知られながらも実態がよく分かっていなかった古墳(第1支群第2号墳)の測量調査が行われました。

拜戸古墳群について

拜戸古墳群は、比良山地の北端にあたる嶽山山麓に所在します。古墳群は、昭和2(1927)年に刊行された『高島郡誌』には、「高島村大字上拜戸山林一町歩に亘りて古墳七箇現存す。」と記載され、その存在は早くから知られていました。昭和46(1971)年の滋賀県教育委員会の調査等に



拜戸古墳群(第1支群第2号墳)

より、水尾神社の裏山一帯と拜戸団地の背後、更にその山麓の平地の3つのエリア(第1・第2・第3支群と呼称)に、合計26基の古墳が存在することが確認されています。

これまでの調査により、第3支群10号墳は、葺石(古墳の表面を覆う石)を有する二段築成の帆立貝形古墳で、築造時期が5世紀代に遡ると考えられています。また、第2支群1号墳の横穴式石室は、その特徴から高島市域でも古い時期の横穴式石室と確認されています。拜戸古墳群の多くが横穴式石室であることから、石室を埋葬施設にする円墳が6世紀にかけて継続的に造られていたと考えられています。

はじめての測量調査

今回、京都橘大学によってこれまで詳細が不明であった第1支群において、はじめて測量調査が拜戸森林管理会の協力により実施されました。測量された第1支群第2号墳は、高島平野を眼下におさめ、琵琶湖を望めるなど、古墳の

立地として最高の場所にありま

す。調査により一辺約25〜30mを測る方墳で、木棺などの埋葬施設が想定されています。造られた時期などは更なる調査検討が必要となりますが、第2支群や第3支群の横穴式石室を中心とする拜戸古墳群において、木棺と想定される新たな資料を提示する調査となりました。

これから京都橘大学考古学研究室との連携による、高島市域の古墳調査研究の進展がますます期待される調査事例です。

編集感

コロナ禍で「いつも通り」が難しいなか、感染症対策とさまざまな工夫が凝らされた成人式が開催されました。新しいカタチでの式とはなりましたが、誓いの言葉を述べた表紙の3人を見て、私も元気をもらいました！新成人の皆さんおめでとうございます。どうか明るい未来でありますように！そして表紙の彼らの姿を見て、皆さんにも明るい気持ちになっていただけますように！(Y・H)



広報たかしま

令和3年

2

月号 No.253

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp